

国 語（中）部 会

I. 研究の概要

1. 研究主題

「主体的な思考・判断・表現を伴う学びの創造」
～記述と対話を中心とする言語活動の工夫を通して～

2. 主題設定の理由

2016年12月の中教審答申によると、21世紀の社会は、知識基盤社会であり、こうした社会認識は今後も継承されていくものだとしている。そのうえ、近年の情報化やグローバル化といった社会の変化が、加速度的に進展し、より複雑で予測困難になっていると捉えている。

このような時代だからこそ、子供たち一人一人が、予測できない変化に対して前向きに向き合う必要がある。そして、感性を豊かに働かせて、よりよい人生社会のあり方を考え、試行錯誤しながら、問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる力（生きる力）を身に付ける必要がある。そのためにも、学力の三要素【基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、そして、主体的に学習に取り組む態度】のバランスのとれた育成や言語活動の充実を図ることが重要である、としている。

我々教職員は、そのための一つの手段として、「生徒の主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を活性化していくことが重要である。授業においては、今後も、単元や題材のまとまりの中で、生徒が「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく必要がある。

このような視点を持って授業改善を図ることが、生徒の学びに向かう主体性や思考力・判断力・表現力を育てることにつながるはずである。

3. 研究仮説

記述と対話を中心とする言語活動の工夫を通して、確かな言葉の力（思考力・判断力・表現力）を育てることができる。

4. 研究内容

①教科書教材についての実践研究

1) 記述と対話を中心とする言語活動の設定

※教材の指定はしない

②教科書教材以外についての実践研究

- 1) 記述と対話を中心とする言語活動の工夫
- 2) 言語能力を高め、言語感覚を豊かにするための実践
- 3) 優れた教材の開発

③理論研修

・国語教育を取り巻く現状や課題について学び、課題解決の方策の手がかりを得ることで、直面する課題に対応する教師の力を高める。

④教育課程研究

・2020年度は、教育課程展開編の作成に向けて、必要な調査や資料収集、研究等を行う。

5. 研究方法

- | | | |
|----------------|--------------|-----------------|
| ○地域サークルでの研究推進 | ○石教研第二次研究協議会 | ○各種研修会（実技・理論研修） |
| ○部会情報「一語一会」の発行 | ○ホームページの更新 | ○教育課程委員研修会 |

Ⅱ. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

4月14日（火）石教研第一次研究協議会<中止>

5月12日（火）石教研専門部会役員研修会

～今年度の研究は、自主研修をメインとし、市町村単位で実践交流を行う

11月20日（金）理論研修会（研修センター）

2. 市町村ごとの実践交流

★紙面の都合上、恵庭市・北広島市からの実践の一部を掲載いたします。

(1) 恵庭市

3年生 単元名「4. 状況の中で」

授業者：今井 直人 教諭（恵庭市立恵北中学校）

○本授業モデルの特徴

- ・新聞記事に対して、立場と根拠を明確にして自分の意見を書く場面がある。（自ら考え吟味する）
- ・お互いの意見を交流し合う場面がある。（言葉で伝える）

○第3学年国語科授業モデル

I、単元の概要

1. 単元名「4. 状況の中で」

2. 単元で育成を目指す資質・能力

- (1) 知識および技能に関わる目標→我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 >新聞記事を読む
- (2) 思考力、判断力、表現力等に関わる目標→自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 >意見文を書く
- (3) 学びに向かう力、人間性等に関わる目標→思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 >それぞれの意見を交流し合う

3. 単元のイメージ（総時数3時間）

次	学習活動（*は期待する生徒の姿）	教師の主な関わり
1 (1)	○社説を読み、話題を確かめる *社説を読み、内容を理解することができる	●ワークシートを使って社説が扱っている話題を理解させる
2 (1)	○社説を比較して、主張や論理の展開のしかたをつかむ *社説の中の「主張」や「論理の展開」の特徴について理解することができる	●ワークシートを使って社説を比較させる
3 (1) 本時	○新聞記事を題材に意見文を書き、交流し合う *新聞記事の内容を読み取り、自分の意見を書くとともに、その内容を班や学級内で適切に伝え合うことができる	●新聞記事を提示し、立場と根拠を明確にして意見文を書かせる

国語科における「伝え合う力を高める」ことについての考え方は「伝え合う力を高める」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力を高めることを指す。

II、本時の展開（3／3）

1. 本時のねらい

- (1)新聞記事を読み、立場と根拠を明確にして意見文を書く。
- (2)それぞれの意見を交流し合う。

2. 本時のイメージ

時間	学習活動（*は予想される生徒の姿）	教師の主な関わり 評価
5分	① 新聞記事の内容の確認 *全体の流れをつかむ	●本時の流れの説明と話題とする新聞記事の提示
15分	② 立場と根拠を明確にして意見文を書く *ワークシートの記入	●活動の様子を観察し、必要な助言等を行う 観察・ワークシートの記入
15分	③ それぞれの意見を班で交流し合う *班で司会と記録・発表を決めて交流し合う	●活動の様子を観察し、必要な助言等を行う 観察・ワークシートの記入
10分	④ 班で話し合った内容を全体で交流し合う *自分の意見と比べながら聞く	●発表内容について、短く評価する
5分	⑤ 本時の振り返り *ワークシートの記入	●活動の様子を観察し、必要な助言等を行う ●「伝え合う力を高める」ことの意義について確認する

【学習指導要領解説 国語編との主な関連】

- ・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫する【書くこと】
- ・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫する【話すこと】

(2) 北広島市

3年生 単元名「4. 状況の中で」

授業者：柳本 真理 教諭（北広島市立東部中学校）

◎「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」の授業実践

1. ねらい

- ・社会生活の中から紹介する事柄を決め、多様な方法で情報を集めながら、自分の考えをまとめる。
- ・書いた作品を読み合い、まとめ方や情報の活用のしかたなどについて助言し合う。

2. 指導計画

時間	主な学習内容	備考
1	オリエンテーション・情報収集①	教室でタブレットPC使用
2	情報収集②	自宅でレポート作成
3	レポート交流・自己評価	

3. 実践

※オリエンテーション資料

さまざまな方法で情報を取りよう 職業ガイドを作る 2年 氏名

プロ野球選手について

①なぜこの職業を選んだか
野球が好きで、「プロ野球選手か」というのが好きでいるか気になったから。

②プロ野球選手の仕事とは
日本におけるプロ野球選手は、「プロ野球選手会」に加盟したプロ野球選手で、プロ野球チームに所属して試合に出場する。プロ野球選手は、プロ野球チームと契約した選手で、プロ野球チームに所属して試合に出場する。プロ野球選手は、プロ野球チームと契約した選手で、プロ野球チームに所属して試合に出場する。

③プロ野球選手になるには
プロ野球選手になるには、プロ野球選手会に入会し、プロ野球選手会に所属する必要がある。プロ野球選手になるには、プロ野球選手会に入会し、プロ野球選手会に所属する必要がある。

④実際の仕事の様子
プロ野球選手の仕事は、プロ野球選手会に所属し、プロ野球チームに所属して試合に出場すること。プロ野球選手の仕事は、プロ野球選手会に所属し、プロ野球チームに所属して試合に出場すること。

⑤調べてみた
プロ野球選手の仕事は、プロ野球選手会に所属し、プロ野球チームに所属して試合に出場すること。プロ野球選手の仕事は、プロ野球選手会に所属し、プロ野球チームに所属して試合に出場すること。

⑥参考資料
Webサイト「プロ野球選手会」

さまざまな方法で情報を取りよう 職業ガイドを作る 2年 氏名

歯科衛生士について

①調べたこと
歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。

②歯科衛生士の仕事とは
歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。

③就職先
歯科衛生士の就職先は、歯科医院、歯学部、歯科大学など。歯科衛生士の就職先は、歯科医院、歯学部、歯科大学など。

④実際の仕事
歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。

⑤調べてみた
歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。歯科衛生士の仕事は、歯科医師の補助として、歯科診療を支援すること。

⑥参考資料
Webサイト「歯科衛生士」

さまざまな方法で情報を取りよう 職業ガイドを作る 2年 氏名

獣医師について

①なぜこの職業を選んだか
動物が好きで、動物の健康を管理したいと思ったから。

②獣医師の仕事とは
獣医師の仕事は、動物の健康を管理すること。獣医師の仕事は、動物の健康を管理すること。

③実際の仕事の様子
獣医師の仕事は、動物の健康を管理すること。獣医師の仕事は、動物の健康を管理すること。

④調べてみた
獣医師の仕事は、動物の健康を管理すること。獣医師の仕事は、動物の健康を管理すること。

⑤参考資料
Webサイト「獣医師」

さまざまな方法で情報を取りよう 職業ガイドを作る 2年 氏名

グラフィックデザイナーについて

①なぜこの職業を選んだか
デザインが好きで、創造的な仕事に就きたいと思ったから。

②グラフィックデザイナーの仕事とは
グラフィックデザイナーの仕事は、商品のデザインをすること。グラフィックデザイナーの仕事は、商品のデザインをすること。

③実際の仕事の様子
グラフィックデザイナーの仕事は、商品のデザインをすること。グラフィックデザイナーの仕事は、商品のデザインをすること。

④調べてみた
グラフィックデザイナーの仕事は、商品のデザインをすること。グラフィックデザイナーの仕事は、商品のデザインをすること。

⑤参考資料
Webサイト「グラフィックデザイナー」

4. 実践の振り返り

臨時休校で進度調整を考え、レポート作成は自宅での作業としました。本当はワードなどを使ってのレポート作成の方が、よかったのかなと思いつつ、手書きでの作業としました。せっかく作成したレポートだったので、この後の単元「魅力的な提案をしよう」で発表してもよいこととし、うまく活用した生徒もいました。

例年通りにいかない部分もまだ多いですが、今後も工夫しながら指導を進めていきたいと思ひます。

Ⅲ. 実技理論研修会

1. 実技理論研修会

- (1) 日時 11月20日（金）
 (2) 場所 石狩教育研修センター
 (3) 講師 梅村 武仁 氏（元 北海道教育大学教職大学院 特任教授）
 (4) 演題 「主体的な学びを深める国語授業の在り方」



(5) 流れ ～ 井上智裕副部長（千歳市立北斗中）の報告から

- ① 講師の梅村氏はコロナ禍にも関わらず、快く講師を引き受けて下さいました。長年、現場で国語を通じて生徒たちと向き合ってきた豊富な授業実践をもとに「主体的な学びを深める国語授業の在り方」について、数多くのご示唆を頂きました。また、教職大学院では教職員の協働や学級経営などの研究をされており、国語の観点以外からも、貴重なお話を聞くことができました。
- ② まずはじめは、なぜ、「主体的・対話的で深い学びが大切か」ということを参加者全員で共有しました。大切なことは具体的な授業改善のイメージを持つこと、そのために考える手立て、またその際に課題となってくることを、「主体的な学び」の視点、「対話的な学び」の視点、「深い学び」の視点、それぞれから確認することができました。
- ③ 後半は、実際の授業実践を数多く紹介して頂き、今後の授業づくりのヒントになる内容が続きました。教材自体は、過去のものや、以前の内容のものもありましたが、全て梅村氏ご自身が練り上げ、何回も何回も追試を行った実践ばかりで、子どもたちとのやり取り、息遣いまでが伝わってくるようでした。
- ④ また、「深い学びのヒント」として、「宮沢賢治の授業」についてもご紹介頂きました。80年たっても教え子が鮮明に覚えているという、「宮沢賢治の授業」は、目に見えるような説明、実生活に置き換えて深く考えさせる、生徒同士のディスカッションなど、現代の教育、授業づくりでも私たちが大切にしなければいけないことに満ちあふれています。これからは教師が教えたいこと＝生徒が学びたいことを目指していく確認をして、理論研修会を終えました。

2. 実技理論研修会の成果

*参加者の感想から

- ・授業に追われているせいか、淡々と進めてしまっているような日々でしたが、講師先生の話聞いて、生徒自身が学びたい、楽しいと思える授業づくりの大切さを改めて感じました。しかし、同時にその難しさ（準備の出来、進め方など）を感じ、もっと自分自身学んでいかなければと思いました。
- ・たくさん実践を紹介していただき、今後いつかできればと思いました。特に受信・発信、やってみたいと思いましたが、すぐには難しそうです。前半の理論の部分についても、印象に残る言葉がありました。本日は本当に

ありがとうございました。

- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指し、どのように授業するか、どのように学ばせるかは、やはり皆悩むところなのだと思います。梅村氏のように、様々な形で生徒の意欲を喚起するよう努めなければならないと改めて思いました。
- ・授業実践例が多く、すぐ実際にやってみたいと思う内容ばかりでした。
- ・参考になる実践をたくさん聞くことができました。それと同時に、自分の授業を反省し、もっと何か工夫、研究しようという気持ちになりました！
- ・コロナ禍の中、理論研を開催していただき、ありがとうございます。とても有意義なお話で元気をもらえました。宮沢賢治の教え子の話がとても印象に残り、すぐ図書館で予約しようと思いました。
- ・梅村氏の授業のお話をききながら、子どもたちの変容と学びを深めていく過程の子どもたちのキラキラした瞳や表情が何度も浮かび、「私も授業改善やるぞ！！」と、前向きに頑張る意欲が出てきました！ありがとうございました！
- ・「主体的な学びを深める国語授業の在り方」の研修会では、今まで、自分の知らなかった教材で、色々なやり方の授業ができることを学ぶことができました。教員1年目で、あっという間に1日が過ぎ、半年がすぎて、なかなか自分の授業を振り返る時間がありませんでした。これを機会に、自分の授業を振り返って確立させたいと思います。
- ・子どもたちが、自ら学習課題を見つけて学び深めていく（アクティブに考える）コロナ禍において、学習内容とにかく教えるに終始しているので、「少年の日の思い出」では、ぜひ受信・発信の授業をしたいと思います。

IV. 部会研究の成果と課題

<成 果>

○コロナ禍の状況において、例年行われていた一堂に会しての研究協議会の開催の活動ができなくなり、一方で休校分の時数確保が各校の最優先課題となってしまいました。また、年度当初は、前頁に記載したとおり「記述と対話を中心とする言語活動の工夫を通して」を研究の中心としていましたが、「対話」を「話し合い活動」と捉えた場合、このような状況の中で話し合い活動自体が教室の中で実施は難しい、という悩みを抱えた部会員も多かったと思われる。そのため今年度は以上の点を鑑み、研究の方針にきつく縛られることなく、今行っている実践を市町村単位で交流する、という形をとりました。市町村により、交流の持ち方や開催方法など苦慮された点は多々あったと思いますが、できる範囲の中で交流が図られました。また、このような中でも、講師の方をお招きして「理論研修会」を行うことができました。こちらも、各校の状況があるので参加者は少なかったのですが、前項に書いたとおり、参加者の中からは有意義だったとの声が多くありました。

<課 題>

- 上記の<成果>に書いたことと重なる部分が多いのですが、今年度の研究の進め方は非常に大変でした。「レポート交流」が中心となりましたが、実際は日々の授業をこなすことが精一杯で、研究の大切さは分かりながらも授業以外の業務も重なり、ジレンマを抱えながら研究を進めた部会員もいたように感じています。
- 「新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策」が重要視される中、国語の活動の目玉の一つである「話し合い活動」を、今後の学校教育の中で実践していくかは、さらに部会員全員で考えなければならない課題です。
- 次年度は、今年度中心サークルを予定していた「江別市」が引き続き中心サークルになることが決まりました。全体の研修がなかったのですが、二年連続で引き受けてくださり、江別市の部会員には感謝をしています。次年度も、どうぞよろしく願いいたします。

(文責 岡本 真一)